



おお っち
大 槌 報

No. 100

5 月

昭和51年5月31日発行 発行/大槌町 編集/総務課 岩手県上閉伊郡大槌町新町1番1号 TEL 01934(2)2111(代)



往古をかたる大槌城址

大槌城は中世の典型的な山城で
軍事的見地を主としていました。

ここは大槌氏がおよそ280年の
間、本拠となった所です。

代官制がとられてからは、1658
年藩命により、城は解体されま
した。

広報100号発行にあたって



大槌町長
後藤 力

昭和三十年 金沢村との合併以来、皆様の暖かいご指導ご鞭達によって育まれて参りました「広報大槌」がこの五月、お蔭様をもちまして第百号となることができました。

この「広報大槌」は合併以前「大槌町報」として発行されてはいましたが、合併と同時に新たに第一号とされ、更に昭和四十年九月の第十三号において現在の「広報



大槌町議会
議長
金崎満男

広報大槌が発行されてからコミュニティの媒体としての役割を果たしながら今回ついに百号に達しました。

長い間休みなく続けられてきた広報活動の意義は町勢の姿を正しく伝えてきた点において高く評価されねばなりません。

広報は単的にいうならば地方自治体の動勢をありのままに報道す

大槌」と銘を変え今日に至っている訳でございます。

この間、昭和二十八年の庁舎焼失による被害をはじめ、合併直後の財政再建措置などの逼迫困難による事務の煩瑣にかられ、時として発行の止むなきに至った経緯もあり、町民皆様の叱責を受けたこともありました。

このような経過を持ちながら「広報大槌」は町政全般にわたる内容や町内の主な出来事などを掲載し、行政と住民とを結ぶパイプ役として現在に及んでおるところでございます。

近年、文化国家成形の一要素として情報化社会云々ということが、ることによって地域住民の理解を深めるための情報の媒体でありま

す。いい換えれば行政の縮図ともいうべきものでありますから新聞紙面の構成とは少なからず趣きを異にします。

新聞や雑誌の記事には結論が先に出ていて見出しだけでこと足りる場合もあります。

勿論それは読む人によっても違いますが、本の場合も一言一句理解しながら読む本もあるし、とぼして読む本もあります。

しかし広報はわが町の行政の実態がどういう仕組みになっている

よく言われております。このことを如実に露出するかの様に種々の情報媒体が開発され、そのめざましい進展は地方市町村にまで及び、各分野での情報交換が繁委なくらいであり毎日の生活にも大きく影響を及ぼすようになりました。こういったなか「広報大槌」も未熟ながら少しでも皆様のお役に立てばと願いつつ号を重ねているところです。

岩手県内の各広報紙は全国的にも非常に高く評価されております。この中であってわが大槌町の広報も遅ればせながらもその体裁などを変え、手に取りやすいように見やすいよらにと努力を続けておる

のか、現にどういう事業が行われているのか、その目的や内容がどうなのか、自分の地域や生活とどうな関係をもっているのか、すべて歴史的経緯の上にたった具体的な事実を記載したものであります。

年間予算の構成やその内容、地方税についての解説、道路や下水道対策の状態、保健衛生についての問題点各種行事の実施状況等行政の変化に対応して的確かつ効果的に報導することによって情報の媒体としての役目を果たすことになり

ます。現在の情報化社会の特徴は情報処理システムの発達によって必要

とところであります。

広報紙のもつ使命は今更ここで述べるまでもありませんが兎にも角にも町民二万余の皆様が挙って目を通して頂いてこそ初めてその所期の目的が叶うものであります。今回、百号記念特集にあたり、改めて広報について一言申し上げる機会を得ましたが、どうぞ不備な点があればご指摘され、ご要望ご質問がありましたらどしどし述べて頂き、町政のあり方が簡明に解かるような楽しめる広報紙としてお導きをお願い申し上げます。併せて永くご愛読下さるよう念願致しまして私のあいさつといたします

な情報を直ちに処理出来ることにあるともいわれています。

一方においては情報の価値の増大によって人間の創造力と知力を重視される社会に移行していくものと思われま

す。たしかに世の中大きく変わりつつあることが実感として体得できるし又そう考えさせる根拠もあります。

つまり現代は正しい情報があつて正しい判断がなされ行動の基礎になるという情報の価値観にたつて広報大槌がより紙面を充実させそして発展していくことを望んで止まない次第であります。

広報をよく読みましょう



本町 行政連絡員 赤崎 守男

広報発行一〇〇号 おめでとございます。

行政連絡員として感ずることで、よく広報が配布されても、目に触れられることなくゴミ同然に部屋の片隅に投げられています。配布する者としては誠に残念ではありません。

広報はいうまでもなく町政を知る上で重要なものです。配布されましたらよく読んで、できれば綴っておくのもよいことでしょう。個人的な意見ですが、町民センターがいよいよ建設に入り、二年後には町民が待ち望んでおります文化の殿堂が完成する予定ときいております。

長い工事期間ですので、完成するまでの間、年に二、三回定期的に建設進行状況を広報に掲載してほしいと思います。

最後に 広報は行政連絡員を通じて班長さんより各家庭に配布されますが、この機会を通じて班長さん方のご協力にお礼申し上げるとともに、今後のご協力お願いいたします。

心暖まる故郷の便り



吉里吉里 筑波 功

広報編集の皆さん ご苦労さまです。

毎月、勤務先に郵送される広報は仕事に忙しいため、正直言つて手に触れられることなく部屋の片隅に投げられていることが常です。私たち出稼ぎ者の楽しみは月に一、二回の休日だけです。一歩街へ出ると汚れた空気、冷たいばかりのビルの谷間、疲れとむなしさのみが残るだけです。遠く故郷を離れている者にとつて想うことはいつも故郷のことと家族のことです。

そんな時、広報を手にし、すみずみまでくまなく読むのです。この不況にもめげず躍進つづける町の姿、フォトニュースに見るいろんな催し、行事など大げさに言えば「故郷のかおり」をのせてくれる広報に心から感謝しています。

出稼ぎの人たちは、自らの生活をまもるために日夜奮闘していることと思えます。これからも故郷の便りを心から待ち望んでいますので、一人でも多くの人に送って頂くようお願いいたします。

学生にも興味ある広報に



末広町 佐々木美代子

私は、高校二年生の女子学生です。

私たちの町の広報は、一般に町の政治や多額の予算導入による事業、あるいは町民生活のニュースよるこびとかなしみが掲載されています。

広報はいいかえれば、私たちの「町民の新聞」なのですが、古新聞と思う時さえあるのです。ですから「町の広報」といってもあまり読んだことがありません。私たち学生には、内容的に興味ある記事が少ないからでしょう。

私たち学生が広報に期待するものは、町の観光をもっと紹介してもらいたいし、また実際行ってみたいものです。ですから町独自の観光コースを設定し、たとえば六月にはこのコース、七月にはここがみどころですといった具合に広報にのせ、家族、友人の町の観光強いて言えば自然に対する意識の高揚を図ることも、広報で考えてみてはどうでしょう。

今の広報の形式的なところが多いようです。子供、老人にも親しめる広報に育ててください。

広報づくりあれこれ

今回一〇〇号になる広報「大槌」は今までたくさんの方の手を経て来ました。

およそ、何かの事柄を文にまとめそれを編集し、ひとつの本なり広報紙なりあるいはパンフレットなりに印刷して発行するという仕事は、出来上りを見た目以上に様々な苦労があり、そして難しいものです。

文章や写真あるいは見出し文字などのレイアウト（配置）での苦労、一字の誤字も許されない厳しさ、更に月一回の限られたスペースに、より速時性のある興味のある記事を掲載しなければならぬ苦勞。つまり、一人でも多くの人々に読んでもらうような広報をめざして、こういった経験のない素人が手がけて続いて来た広報。これも今回皆様のお陰をもって百号にまでなりました。

時代は情報化社会のより高度化をめざして進歩している中、我が広報「大槌」はこれから、どのような広報活動をめざしたらよいのでしょうか。

広報活動は文字通り「広く報ずる」活動とみることができるといえる。けれども、広報活動は単にこちら側のことを相手に報ずるた

めの「語りかける」努力ばかりでなく、相手側を知るための「聴く」努力をも含んでいると考えられます。

そういう意味からも、一〇〇号を契機にアンケートを実施しました。（六、七ページを参照）

実際に広報の存在を知らない人読まない人もいましたが、ほとんど多くの人はよく読んでいます。広報に対する要望、意見も多くなりました。

正直のところ広報「大槌」の歴史は浅く、まだまだ満足できる状態ではありません。それだけに、皆様から寄せられた貴重な意見を参考に、より一層充実した広報づくりに意気が沸くものです。

主なもくじ

広報 100号発行によせて	2~3
町政とともに歩む広報紙	4~5
広報に何を求める	6~7
町民センターいよいよ建設へ	8
城山大学開講	8
大槌の民話	9
フォト・ニュース	10
おしらせ・おねがい	11
よろこびとかなし	12

町政とともに歩む広報紙

一号から九十九号までの
主な掲載内容

(カッコ内は発行年月日)

第一号 (32 2 20)

○大槌町財政再建計画

第二号 (32 12 10)

○財政再建計画昭和31年度実施状況

○町営住宅入居者の公募について

第三号 (34 4 15)

○昭和34年度予算七〇、九四八千円

第四号 (34 6 25)

○新町建設計画の調整について

第五号 (34 9 1)



広報 (町報) 1号

○チリ地震津波復興に全力そそぐ

第八号 (36 1 20)

○まちの人口二万人をこえる

第九号 (37 2 5)

○釜鉄従業員住宅誘致決まる

第十号 (39 7 18)

○大槌町体育館完成

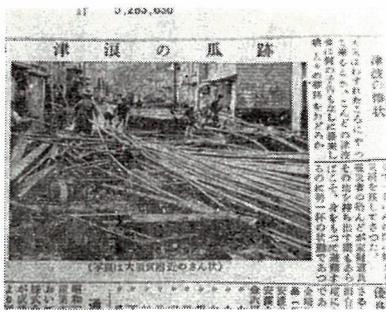
第十一号 (39 9 29)

○街区町名も新たに

第十二号 (40 8 10)

○テレビ局NHK九月開局

○町民プール完成



チリ津波の惨状を伝える (7号)

○昭和39年度決算二五六、四二二千円

○国勢調査人口二〇、〇五九人



体育館完成 (10号)

第十六号 (40 12 10)

○町村合併十周年の式典

第十七号 (41 1 10)

○新山肉牛放牧施設完成

第十八号 (41 3 10)

○新年度予算二五二、八〇〇千円

第十九号 (41 8 10)

○港町埋立地の完成間近

第二十号 (42 5 1)

○昭和42年度予算三二五、〇〇〇千円

第二十一号 (42 6 1)

○山村振興事業を推進

第二十二号 (42 7 20)

○八月十日町議会議員選挙執行

第二十三号 (42 9 10)



現在の題字になる (13号)

○安渡小学校プール完成

第二十四号 (42 11 20)

○昭和41年度決算二九三、六一七千円

第二十五号 (43 1 10)

○IBC「大槌町を語る」座談会

第二十六号 (43 5 20)

○十勝沖地震襲来、被害一億三千万円

○待望の古廟坂トンネル開通

○昭和43年度予算三九八、八五〇千円

第二十七号 (43 8 25)

○町政の実態を見て／一日婦人課長の勉強

第二十八号 (44 1 10)

○昭和42年度決算三六四、四八五

千円

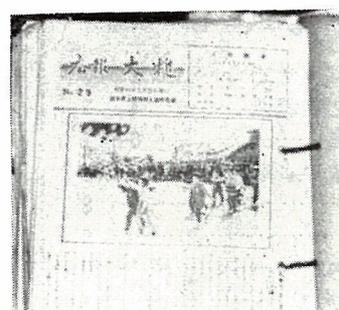
千円

第二十九号 (44 5 26)

○昭和44年度予算四〇五、〇〇〇千円

第三十号 (44 8 5)

○みんなで夏の事故を防ごう



B5判になる (23号)

第三十一号 (44 11 10)

○昭和43年度決算三七九、二六九千円

第三十二号 (45 1 10)

○安渡、吉里吉里両トンネル開通

第三十三号 (45 5 1)

○昭和45年度予算四六六、四六〇千円

第三十四号 (45 6 1)

○第25回国民体育大会「岩手国体」特集号

第三十五号 (45 8 1)

○水の事故に注意しましょう

第三十六号 (45 9 1)

○大槌漁港修築

第三十七号 (45 11 1)

○秋の交通安全運動実施

第三十八号 (45 12 1)

千円

千円

第七号 (35 7 27)

○国民年金制度の解説

第六号 (35 1 25)

○昭和33年度決算九六、二〇九千円

第十三号 (40 9 10)

○大槌町史上巻近く発刊

第十四号 (40 10 10)

○好漁にみなぎる魚市場

第十五号 (40 11 10)

- 国民健康保険と交通事故 第三十九号(46 1 18)
- 昭和44年度決算 四五一、四三六千円
- 第四十号(46 2 1)
- 国勢調査人口 二〇、四八七人
- 第四十一号(46 2 13)
- 大槌川はゴミの山
- 第四十二号(46 3 17)
- 春の全国交通安全運動特集 第四十四号(46 4 3)
- 昭和46年度予算 五六七、八〇〇千円
- 三漁業協同組合合併 第四十五号(46 5 12)
- 浪板海岸レストハウス落成 第四十六号(46 6 17)
- 後藤町長、就任あいさつ 第四十七号(46 7 10)
- 北上山系開発調査事業進む 第四十八号(46 8 28)
- 八月八日町議会議員選挙執行 第四十九号(46 11 13)
- 統合中学校校舎建設進む 第五十号(46 12 20)
- 筋山に国民宿舎建設 第五十一号(47 1 22)
- 年頭のあいさつ 各課の抱負 第五十二号(47 2 20)
- 昭和45年度決算五四二、二四七千円 第五十三号(47 3 20)
- 変りゆく漁港 第五十四号(47 4 20)
- 昭和47年度予算 八五五、四三〇千円



52号の表紙

- 第五十五号(47 5 20)
- 青少年育成活動集約大会開かる 第五十六号(47 6 20)
- 「大槌の民話」掲載始まる 第五十七号(47 7 25)
- 町民運動場施設建設工事 第五十八号(47 9 5)
- 町発展計画の検討 第五十九号(47 9 30)
- 健康な町づくり 保健運動推進 第六十号(47 11 10)
- 昭和46年度決算 七六〇、九五九千円 第六十一号(47 12 10)
- 広域事業による桜木町舗装 第六十二号(48 1 20)
- 心身とも健やかな健康優良児に 第六十三号(48 2 25)
- 東京大学海洋研究所進出決定 第六十四号(48 4 14)
- 昭和48年度予算 一、一〇八、〇〇〇千円
- 第六十五号(48 5 7)
- 一日のゴミ焼却二十トン 第六十六号(48 6 11)
- 鮭鱒人工ふ化場桃畑分場完成 第六十七号(48 7 20)
- 大槌町営運動場落成 第六十八号(48 8 27)
- 城山大学開講 第六十九号(48 9 27)
- 国民宿舎「大槌荘」落成 第七十号(48 10 22)
- 海洋開発の重要性を強調 第七十一号(48 11 24)
- 町のシンボル決まる 第七十二号(48 12 20)
- 町民憲章決まる 第七十三号(49 1 15)
- 昭和48年度自治功労者の表彰 第七十四号(49 2 20)
- 学園めぐり掲載始まる 第七十五号(49 3 30)
- 生活優先の町をめざして 第七十六号(49 5 10)
- 若者について町長と語る会 第七十七号(49 6 15)
- 世帯数 五、〇〇〇突破 第七十八号(49 7 23)
- 第十回参議員議員通常選挙 第七十九号(49 9 1)
- 給食センター操業開始 第八十号(49 9 20)
- 六月定例議会から 第八十一号(49 10 1)
- 参議員選挙をみる 第八十二号(49 11 15)
- 水産物流通加工センター特集 第八十三号(49 12 25)
- 第三回臨時議会から 第八十四号(50 1 20)
- 東京大学海洋研究センター着工 第八十五号(50 2 27)
- 昭和49年度自治功労者表彰 第八十六号(50 3 30)
- 新山、貞任地区開発事業 第八十七号(50 4 30)
- 土地の取引には許可が必要 第八十八号(50 5 30)
- 昭和三和度予算 一四億一七〇万円 第八十九号(50 6 30)
- 新年度予算のあらまし 第九十号(50 7 30)
- 後藤町長再選される 第九十一号(50 8 30)
- 新入八氏当選・町議会議員選挙 第九十二号(50 9 30)
- きびしい国保財政 第九十三号(50 10 31)
- 九月定例議会より 第九十四号(50 11 30)
- 昭和三和度決算 一三億九〇八万六千円 第九十五号(50 12 25)
- 国勢調査人口 二一、〇七九人 第九十六号(51 1 31)
- 合併二十周年式典 第九十七号(51 2 28)
- 懸案事項をどう進めるか 第九十八号(51 3 31)
- 夜明けを迎える北上山系 第九十九号(51 4 30)
- 勤労青少年体育センター完成 第一百号(51 5 30)
- 住民の声を町政に 第一百一号(51 6 30)
- 町勢発展計画策定準備進める 第一百十二号(51 7 30)
- 昭和三和年度予算 一七億一三〇〇万円 第一百十三号(51 8 30)
- 議員定数二十六人に削減決議



町民憲章募集

- 県道大槌・小国線開通 第九十号(50 7 30)
- 農業委員会委員決まる 第九十一号(50 8 30)



98号の表紙

- 新人八氏当選・町議会議員選挙 第九十二号(50 9 30)
- きびしい国保財政 第九十三号(50 10 31)
- 九月定例議会より 第九十四号(50 11 30)
- 昭和三和年度決算 一三億九〇八万六千円 第九十五号(50 12 25)
- 国勢調査人口 二一、〇七九人 第九十六号(51 1 31)
- 合併二十周年式典 第九十七号(51 2 28)
- 懸案事項をどう進めるか 第九十八号(51 3 31)
- 夜明けを迎える北上山系 第九十九号(51 4 30)
- 勤労青少年体育センター完成 第一百号(51 5 30)
- 住民の声を町政に 第一百十一号(51 6 30)
- 町勢発展計画策定準備進める 第一百十二号(51 7 30)
- 昭和三和年度予算 一七億一三〇〇万円 第一百十三号(51 8 30)
- 議員定数二十六人に削減決議



広報に寄せる大きな期待

広報に対する意識調査

広報が発行されて、五月号で第一〇〇号を迎えましたが、このほど十地域、二三人を対象に「広報に対する意識調査」を行いました。広報へのイメージ、記事への関心、評価など調査結果は次のとおりです。(表のカッコ内の数字はパーセント)

原則として八ページ、月一回発行している広報は、町内全世帯に配布されていますが、認知率はかなり高い結果が出ました。「知らない」と答えた人は、年齢的には、若年層にみられます。

ほぼ全員が「読んだ経験をもって」います。(九六・八%) 「読んだことがない」と答えたものは、問一同様、若年層にみられますが、これは広報紙の性格上、町政の報告、解説、お知らせなどを中心とした編集内容になっているためでしょう。

中高年層は熱心な読者

「熱心な読者」(丹念に読む十九・六%、やや丹念によむ二六・八%)は四六・四%もあります。年齢的にみますと、熱心な読者は、男女とも四十〜六十歳の中高年層に多く、これは生活上利益に

問1 広報「大槌」を毎月各家庭に配布していますが、その広報「大槌」があることを知っていますか

区分	総数	知っている	知らない	無解答
男	85 (100)	84 (98.8)	1 (1.2)	0
女	104 (100)	101 (97.1)	3 (2.9)	0
計	189 (100)	185 (97.9)	4 (2.1)	0

問2 広報「大槌」を読んだことがありますか (問1で知っていると答えた人のみ)

区分	総数	読んだことがある	読んだことがない	無解答
男	84 (100)	81 (96.4)	3 (3.0)	0
女	101 (100)	98 (97.0)	3 (3.0)	0
計	185 (100)	179 (96.8)	6 (3.2)	0

問3 広報「大槌」をどの程度読みますか (問2の質問で読んだことがあると答えた人のみ)

区分	総数	丹念に読む	やや丹念に読む	ざっと読む	いちべつするだけ	どちらでもない	無回答
男	81 (100)	15 (18.5)	22 (27.2)	35 (43.2)	3 (3.7)	4 (4.9)	2 (2.5)
女	98 (100)	20 (20.4)	26 (26.5)	47 (48.0)	1 (1.0)	4 (4.1)	0 (-)
計	179 (96.8)	35 (19.6)	48 (26.8)	82 (45.8)	4 (2.2)	8 (4.5)	2 (1.1)

問4 広報「大槌」は親しみやすいですか

区分	総数	親しみやすい	まあ親しみやすい	やや親しみにくい	親しみにくい	どちらでもない	無解答
男	81 (100)	20 (24.7)	34 (42.0)	5 (6.2)	1 (1.2)	18 (22.2)	3 (3.7)
女	98 (100)	18 (18.4)	59 (60.2)	4 (4.1)	1 (1.0)	14 (14.3)	2 (2.0)
計	179 (100)	38 (21.2)	93 (50.2)	9 (5.0)	2 (1.1)	32 (17.9)	5 (2.8)

広報のイメージ

特に女性は広報に親しみやすさを持っていきます。逆に男性の肯定度は女性より低く、否定度が七・四%もあります。

しかし、肯定的な数値がいくら高くても、「どちらでもない」と価値判断を中断するものが十七・九%もありました。親しみにくい理由には、「編集に工夫がない」「ページが少ない」「印刷が悪い」というきびしい指摘がありました。

なるとか、町政など公共的な問題に常に関心を持つ年代でもあるからでしょう。逆に若年層は興味をあまり示していないようです。

男性のきびしい批判

「面白い」「やや面白い」は六三・七%、「面白くない」「あまり面白くない」は一・七% 特に男性の否定度が高くなっています
 もつとも、広報そのものは「面白さ」では欠ける点も事実です。テレビ、新聞といったマス・メディアに比べるとやはり硬い内容が多いものです。

問5 広報「大槌」は面白いですか

区分	総数	面白い	やや面白い	あまり面白くない	面白くない	どちらでもない	無解答
男	81(100)	11(13.6)	35(43.2)	9(11.1)	3(3.7)	19(23.4)	4(5.0)
女	98(100)	18(18.4)	50(51.0)	8(8.2)	1(1.0)	20(20.4)	1(1.0)
計	179(100)	29(16.2)	85(47.5)	17(9.5)	4(2.2)	39(21.8)	5(2.8)

問6 広報「大槌」は分りやすいですか

区分	総数	分りやすい	まあわかりやすい	ややむづかしい	むづかしい	どちらでもない	無解答
男	81(100)	21(25.9)	42(51.9)	1(1.2)	1(1.2)	12(14.8)	4(5.0)
女	98(100)	34(34.7)	51(52.1)	1(1.0)	0(-)	11(11.2)	1(1.0)
計	179(100)	55(30.7)	93(52.0)	2(1.1)	1(0.5)	23(12.9)	5(2.8)

第三は「分りやすさ」についてほとんどの人が「分りやすい」「まあ分りやすい」と肯定しています。否定する人はわずか一・六%
 分りやすいということは読者が町民全体である広報にとっては、基本のひとつですが、そんな中で四十九歳の男性から「議会の報告などで専門用語がそのまま使われている。もっと読者側に立った表現内容にしてほしい」という指摘が出されました。

興味ある記事は

問7 広報「大槌」の中で興味ある記事はどれですか

区分	総数	町の重点施策の解説や報告	町の行事の紹介	文化体育活動の報告	議会の活動状況	町民生活の話題	おしらせの欄	よろこびとかなしみ	無解答
男	81(100)	31(38.3)	9(11.1)	7(8.6)	4(5.0)	9(11.1)	1(1.2)	17(21.0)	3(3.7)
女	98(100)	20(20.4)	19(19.4)	6(6.1)	2(2.1)	16(16.3)	3(3.1)	31(31.6)	1(1.0)
計	179(100)	51(28.5)	28(15.6)	13(7.3)	6(3.4)	25(14.0)	4(2.2)	49(26.8)	4(2.2)

広報の記事は、町政記事、町民生活記事、告知記事の三種類に大別できます。「町の重点施策の解説や報告」、「議会の活動」には、男性は約四十三%を示しています
 女性は、町民生活記事、特に慶弔に高い関心を持っているのは当然でしょう。「お知らせお願い」の関心が二・一%なのは伝える側の今後の参考になります。

広報に対する評価をたずねてみるところ、「役立つ」は三六・三%。女性は男性より肯定的です。「役立たない」は六・七%否定的な人は、「不必要な記事が多い」「記事が遅い」という指摘をしています。「どちらとも言えない」人は約半分。これは広報が、それほど生活と密着したものまでに至っていないという消極的な批判として、謙虚に受け取ってよいでしょう。

問8 広報「大槌」は生活に役立ちますか

区分	総数	役立つ	役立たない	どちらともいえない	無解答
男	81(100)	25(30.9)	7(8.6)	44(54.3)	5(6.2)
女	98(100)	40(40.8)	5(5.1)	49(50.0)	4(4.1)
計	179(100)	65(36.3)	12(6.7)	93(52.0)	9(5.0)

もつと町民の声を

調査の最後に、「あなたは広報にひとつだけ注文するならば」という問いに対して、多くの要望、意見が出されました。その代表的なものには
 ○記事が遅い。
 ○議会活動状況を詳しく。
 ○小中学校の活動を取り上げて下さい。
 ○明るい話題をもつと多く。
 ○各地区の様子を知りたい。
 ○町民の声を聞く機関紙、スペースを考えてもよいではないか。
 ○大槌の歴史を知りたい。
 ○編集方針が役所的、ひと工夫を。若者にも親しめるものを。
 など。
 これは広報に対する期待が大きいことを示しています。この調査を参考に町民の皆さまに一層親しまれる広報づくりに努めたいと思います。
 最後に調査にご協力下さいました皆さまに紙上を借りて感謝申し上げます。
 【付記】調査は次のような方法でおこなわれました。
 ○調査地域Ⅱ町内十地域 ○調査対象Ⅱ小中高生と二〇歳以上の成人 ○サンプル数Ⅱ二三五票
 ○回収率Ⅱ八〇・四%(二八九票)

町民センターはいかに建設へ

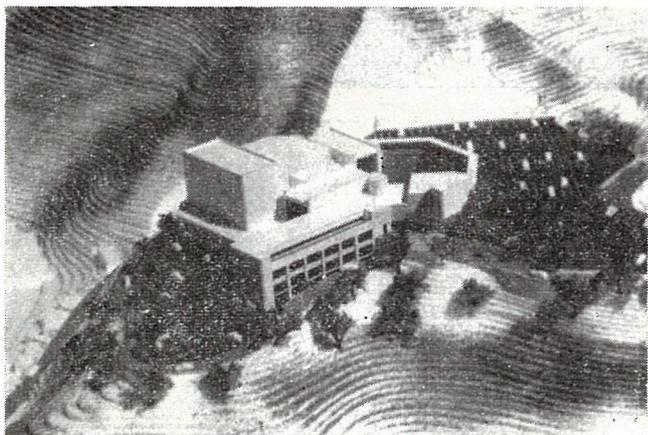
町民が待ち望んでいます社会福祉、文化活動の中核施設となる町民センター造成工事も着工以来、順調に進められ、このほど完了しました。

補助導入を図る意味と財政運営上を考慮し、公民館の要素を包含した型のものを五十一年度、五十二年度の二カ年事業で建設することになりました。

町民センターはいよいよ建設の段階に入つたわけですが、このほど、建設専門委員会が発足し、具体的な町民センター構想について検討が進められます。

町民センターの建設専門委員会は町長の諮問機関として同センターの建設内容などについて審議するもので、四月九日第一回会議が開かれました。

席上、会長に岡本太郎氏（町議）副会長に道又泰三氏（商工会長）を決め、そのあと諮



町民センター予想図

問事項として町民センターの基本構想について話し合われました。つづいて二十八日会議では、建設場所及び建設規模と、設計業者選定について審議されました。

設計業者から提出されていた設計書に基づいて、建物の土地利用規模、外観をはじめ、大ホール、中ホールの収容人員、駐車場のス



ベイス、玄関、ロビー、会議室、結婚式場、老人室、婦人室、身障者室など、細部にわたつてあらゆる角度から検討されました。

なお会長、副会長を除く建設専門委員会のメンバーは次のとおり
金崎満男、小島岩松、黒沢祥太郎、佐々木貞一、阿部力衛、三浦秀雄（以上町議）松田三郎（社会教育審議会）藤村久悦（公民館運営審

きいてーちがちが

城山大学開講

「若者に負けていられません」と、本年度の城山大学（高齢者学級）の開講式が大槌公民館で行われました。

この日、入学生として集つた学生さんは八十四名。教育長のあいさつのおと第一回の講義に入りました。学習主題は町長による「町政を聞く会」。学生さんたちは熱心に聞き入っていました。

この城山大学は、四十四年度から始まりましたが、「現代の急速な社会の進展に対応できるように

学習を行い、高齢者相互の連帯意識を強め明るく楽しい生活を送ること」などを趣旨としています。学生は六十五才以上を対象として毎月定期的に行われます。

会場は大槌公民館を中心に、本年度はバスを利用して吉里吉里、金沢地区でも開催の予定があります。

本年度の学習主題の予定として
①社会変化の理解 ②若い世代の理解 ③健康の維持 ④趣味・教養の充実 ⑤社会奉仕活動への参加を中心に行い、講義内容として七月、「郷土の歴史」「高齢者の健康管理食生活の工夫」
八月、「高齢者の福祉について」
「青年との交流」 九月「趣味の園芸」 「高齢者の生きがいとは」
十月「研修旅行」、 「高齢者とレクリエーション」など三月末まで肩のこらない気軽な楽しい学習内容になつていきます。

また級長には里館忠利さん、副級長には後藤キヨさんが選ばれました。

楽しい豊かな老後を過すためにも、この貴重な生涯教育の実践の機会を利用しましょう。

議会）佐々木三男（校長会）佐々木正三（公民館長）沢館栄吉（文化財専門委員会）菊池大三（民生委員）赤崎守男（行政連絡員）小川八百治（身体障害者協議会）柳田定治（老人クラブ連合会）箱山隆（社会福祉協議会）岩崎高次（商工会）佐藤誠一（北銀大槌支店長）佐々木エイ子（大槌町連合婦人会）兼沢平也（大槌青年団体連絡協議会）及川康孝（県立大槌高校長）の各氏です。

40

十二キロのさ綱

(その四)

大槌の民話



「森のマタギ」と呼ばれていた男が、浪板カッチの沼の沢で鹿笛（おき）を吹いていると、草や灌木がぼうぼうたる中を、ひどくよい声で唄うようにしながら降りてくるものがあります。白地の布を被った女でした。

しかし彼は、人のかたちはしていようと、鹿笛にのって来るのは「マヨイマンのもの（人をまどわす魔性のもの）」と聞いていましたから、背負袋から「金の罫い弾」をとり出し装填して待ち受けました。

女をわずかに二間ばかりの距離まで引きつけておいて、もはや外さ

ずと発砲しました。

すると通常のものならば沢のままに転げおちるように行こうものを、木々の折れこなれるような響きをさせて、沢の上流へむかって逃げ去ったのでした。

マタギは、化物を撃つたのだと思えば、急におそろしさに耐えられなくなつて、そのまま帰つて来てしまいました。

後にその正体を確かめんがために、親父と連れだつて探して行つてみると、長根の谷地（湿地）に巨大なフルダ（ひきがえる・がま）が半ば体をのめりこませ、うつ伏せになつて死んでいたのでした

やはり浪板カッチに鹿獲りに入つていたマタギが、夜となつたので「さ綱」を注連縄に張りめぐらし、その内で焚火にあたつていまして、「おお、さむ寒む」と言つて寄つて来た者があります。

見れば女でしたから、さ綱を外して内へ入れてやると、これが随分と体格のよい女で、胸元をはだけたようにして火にあたつていま



目の前に炎をあげているおきや灼けた小石などを、いきなりそのふくらんでいる大きな乳房の間へ掻きとばしてやりました。

女は、そのおきなどを二つの乳房ではさみこむようにして跳ねあがり飛び出して沢が鳴りこわれるような音をさせて逃げ去りました

普通ならばそのおきなどを払い落そうとするであろうに、抱えこむようにしたのも山姥の乳房ゆえであつたのでしょうか。

浪板の佐藤某という狩人が、下閉伊との郡境になる大沢峠にたつていたとき、下の海岸を笈（おい）のようなものを背負つて、白装束の六部が通ります。

「こんな所を——、なんか妙な六部だな」と思つて見ているうちに、これが大石の下の窪みになつたあたりにはふいと入つたまま出て来ません。しばし見ていきましたが出ませんので、次第に

「あれはタダのものではなかつたかな」と思い、やがてそれが確信となつた時に、彼は銃をとりあげて、その窪みになつたあたりへ発砲したのでした。

さて後日、雪が二寸ほど積つた日でした。彼はまた大沢川の付近へ猟に出ていて、大きな狸の足跡

を見つけました。

それをどこまでも辿つて行くと鯨山の肩のあたりを越え、馬指野の大沢まで続いて、もはやたそがれときにその大岩の傍の穴へ入つているのをつきとめました。

彼は大急ぎでその入口に火を焚き、いぶし出しにかかります、やがて奥の方でフウフウとあえいでいる気配があります。——が、出ては来ません。

しかしそうしている間にも宵闇が執拗にまといつきだしましたから、やむなく穴の出口に大石などをしつかりと積み上げてから、この日は帰りました。

翌朝、彼は親父を伴つて来て、再び、いぶしにかかりましたが、狸が出てくるようすもあえぐ気配すらありません。とうとう訝りながら、前夜のこえのしたあたりを掘り崩してみると、そこに年老いた全身白毛の、実に大きな狸が死んでいたのでした。

海岸の石の下に入つていた白装束の六部の正体は、これであつたに違いありません。



古館謙司氏に勲五等瑞宝章

政府は、天皇誕生日の四月二十九日、「春の叙勲」を発表しましたが、大槌町では前町長の古館謙司氏（75歳）が晴れの勲五等瑞宝



よろこびを語る古館氏

章の榮譽を受けました。

古館氏は、明治三十三年生まれ昭和十年に町議、十四年に県議に当選、二十一年まで努めました。

この間、同十九年には大槌町漁業会長など要職のほか、自ら定置網漁業を営み、漁業の振興に尽くしました。三十八年から四十六年までは、大槌町長を二期八年間努め大槌町の発展に尽力、特にチリ津波被害にともなう漁港修築、ワカメ・ノリ増養殖、教育の振興などに大きな功績を残しました。

大槌ライオンズクラブ結成



「われわれは知性を高め、友愛と寛容の精神を養い平和と自由を守り、社会奉仕に精進するライオンズの誓い」を胸に

会員が協力して新しい活動をめざしたい」の精神のもとに、このほど「大槌荘」で、大槌ライオンズクラブの結成式が行われました。ライオンズクラブとはアメリカで生れた奉仕団体で戦後日本に支部ができました。

県下で三十七番目として、会員四十七人で発足し、初代会長には川原勝郎氏を選ばれました。

結成式には全メンバー四十七人のほか、釜石リアス、釜石、宮古遠野など県下十三団体の代表百八十五人が出席しました。今後の活躍が大いに期待されます



消防にふさわしいユニークな種目も加え、消防団員の運動会が大槌小学校校庭で行われました。

フォト・ニュース



広報四月号の表紙になった版面は、大槌小卒業生の皆さんが精魂込めて作った民話カレンダーです



不便をかけていた徳並地区に大寺野橋が完成し、部落をあげて落成を祝いました。



蕨打直地区の老人クラブの皆さんが、同地区集会場付近の清掃奉仕を行いました。

行動する赤十字

日本赤十字社は人道・博愛の精神を揚げて九十九年。来年初創立一〇〇周年を迎えます。

今、世界には一二カ国に赤十字社があり、人類の福祉と世界の平和に貢献することを使命とし、国際的には、戦争犠牲者や天災地変などによる罹災者の救援活動に協力したり、中立公正の立場において親善活動を行なっております。また、国内事業としては、国民の生命を守るための血液事業、災害救護のように国の付託によるものをはじめ、救護看護婦の養成、救急法の普及、乳児院、医療施設の経営、巡回医療相談、青少年赤十字奉仕団の育成など幅広い事業をやっております。

これらの事業費は、すべて社業振興に協力してくださる社員の社費と、寄付金などによつてまかなわれるものであります。

したがって社員の確保と増強が最も重要な要素になります。この社員増強運動は年間を通じて行なわれるものですが、日赤創設が五月一日であることから、五月を中心に行なわれました。おかげさまで社費目標額の一五七万円を突破しました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。



戸籍手数料1通200円に

このほど、戸籍手数料金が改正され5月1日から戸籍の謄・抄本の手数料は枚数に関係なく、1通につき200円となりました。(今までは1枚70円)
 なお、戸籍 謄本、抄本などを郵便で請求されるときは、必ず現金書留か郵便局の定額小為替で手数料を納めてください。

特に、定額小為替は 100円単位の送金に便利で、1000円以下の送金の場合、料金はわずか10円ですから手軽に利用できます。

なお、郵便切手で手数料を納めることはできませんので、よろしくご協力ください。

区 分	手 数 料 額	区 分	手 数 料 額
戸籍の謄・抄本	1通 200円	上質紙使用の婚姻等受証明書	1通 800円
除籍の謄・抄本	1通 300円	戸籍簿の閲覧	1戸籍 100円
戸籍の記載事項証明	証明事項1件 100円	除籍簿の閲覧	1戸籍 200円
除籍の記載事項証明	証明事項1件 200円	届書類の閲覧	書類1件 100円
受理証明書	1通 100円		

町税条例の一部を改正

低所得者には「均等割」がかからない

町税条例の一部が改正されました。これは地方税法の一部を改正が国会で決められたことに伴って改正されたものです。

改正の主な内容は次のとおりです。

◎ 町民税関係

個人町民税は障害者、●年者などの非課税を年所得70万円(現行60万円)均等割額を1000円(現行300円)ただし均等割額の引き上げに伴い低所得者の負担軽減をはかるため前年の所得が9万円にそのものの控除対象配偶者及び扶養親族の数に1を加えた金額以下である者は 均等割を非課税とします。

法人町民税の均等割は資本金などが

1000万円を超え、従業員が100人以下のものは12000円(現行4000円)資本金1000万円以下のものは7200円(現行2400円)

◎ 固定資産税関係

土地にかかる51年度から53年度までの各年度分の固定資産税については、51年度評価額の50年度分の課税標準額に対する上昇率の区分に応じ負担調整率を求めた額を限度額とします。

上昇率1.3以下のもの(負担調整率1.1) 1.3倍を超え1.7倍以下のもの(負担調整率1.2)

一般農地関係も同一調整率であります。固定資産税の第一期納期は法改正の関係で昭和51年度に限り5月31日と

選挙管理委員を改選

3月25日で任期満了となった選挙管理委員と同補充員が改選されました。

- 【選挙管理委員】○三浦恭太郎(安渡) ○内金崎一郎(大町) ○碓川九平(吉里吉里) ○三浦勇助(金沢) 以上四氏
 【同補充員】○阿部兼三(大町) ○巽岩正吉(須賀町) ○阿部三郎(安渡) ○佐々木勘一郎(金沢) 以上四氏

行政連絡員が変りました

- ▷須賀町 三枚堂勝美→関千枝子
 ▷末広町 山崎正郎→白沢弁郎
 ▷赤浜2 黒沢長命→黒沢伊勢太郎
 ▷種戸 沢山徳蔵→藤原一夫

プール監視人を1名募集

教育委員会では町民プールの監視人を募集しています。

- ▷期間 7月20日～8月25日
 ▷時間 9:30～21:00(時差出勤)
 ▷賃金 1日 2000円
 ▷18歳以上の男子で泳ぎに自信ある人
 詳しいことは教育委員会まで

なりました。その他の納期は従来どおりです。

◎ 軽自動車税関係

バイク50ccの税額は650円(現行500円)90ccは1000円(現行800円)125ccは1300円(現行1000円)軽自動車二輪、2000円(現行1500円)三輪2600円(現行2000円)四輪車乗用自家用は5900円(現行4500円)など約30%程度の引き上げ改正です。

◎ 国民健康保険税関係

最高限度額は15万円(現行12万円)になりました。その他の税率改正は国保財政運用を推計し六月に改正する予定であります。

なお納税組合に未加入の方は早く最寄りの組合に申し込んで下さい。10名以上新しく加入される方は組合を結成し納期内完納にご協力お願いします

人口のうごき

(昭和51年3月31日現在)

人口	21,943		
男	10,815	出生 32	死亡 8
女	11,128	転入 112	転出 272
世帯数	5,449	婚姻 17	離婚 1

車両
距離は
いつもの二倍に



スリッパ事故
多し

結婚



神 和弥	安渡一
阿部 正子	赤浜二
一兜 勝広	金沢
兼沢 昭子	金沢
芳賀 広喜	吉里吉里一
谷沢 孝子	末広町
菊池 繁和	須賀町
臼沢まり子	大町
阿部 ツル	上町
阿部 嗣	金沢
坂本 正行	遠野市
阿部さい子	赤港二
上野 正治	末広町
小向 知子	須賀町
菊池 正彦	末広町
伊藤美恵子	釜石市
佐々木堅吉	新町
北村 恭子	宮古市
岡木 清喜	赤浜二
佐藤 温満	山田町
加藤 泰山	小枕
上山ミワ子	吉里吉里四
佐々木長作	金沢
小石ひろ子	安渡三

よろこびとかなしみ

51・3・1〜3・31

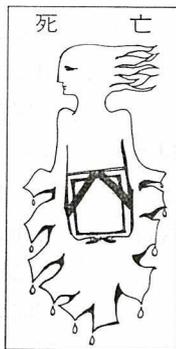
(敬称略)

阿部志津雄	吉里吉里三
倉本 恵子	吉里吉里三
照井 松夫	雇用促進住
植田 朝香	雇用促進住
佐々木広道	金沢
横田 寿子	上町
遠藤 彰	安渡一
山崎 幸子	釜石市
伊藤 良一	須賀町
小林 良子	釜石市



勝村 恵 (光雄)	須賀町
藤原由美子 (裕司)	桜木町
祝田 敏幸 (豊)	末広町
佐合 忍 (里志)	大町
千葉 佳子 (陽一)	小鉤在
阿部 律子 (節郎)	安渡一
木下 一夫 (武彦)	吉里吉里二
金田 智光 (諭)	新町
小岩 雄輔 (寛)	大ケロ
神田 竜慈 (義信)	赤浜一
中井 裕子 (和一)	大ケロ
北田恵美子 (金一)	吉里吉里四
佐々木恵里香 (敏見)	金沢

田中 誠 (栄)	桜木町
阿部 智行 (力治)	沢山
平野 誠 (勝信)	浪板
原 敦 (貞治)	安渡一
三浦 政義 (章平)	源水
三浦 毅士 (克久)	大町
金崎 教晃 (誠一)	末広町
中村 龍徳 (盛観)	桜木町
佐々木 齊 (正道)	大ケロ住宅
佐々木恵美子 (真)	源水
篠崎 信浩 (茂)	赤浜一
六串 伸 (己喜男)	小鉤在
越田 光治 (幸弘)	新町
立石 浩 (健)	大ケロ
岩間 洋一 (秀吉)	末広町
阿部 望 (優)	桜木町
越田 幸江 (和男)	安渡一
阿部山貴博 (徳彦)	安渡一
上野 忍 (耕治)	大鉤在



堀合 エキ	上町
佐々木甚一	金沢
阿部 クマ	新町
木下 一夫	吉里吉里二
福島重四郎	桜木町
岡谷 テル	赤浜二
沢館 トシ	須賀町
山崎門太郎	末広町

自転車の交通事故防止

交通事故	20200
数	20200
件	20200
数	20200
身	20200
損	20200
者	20200
者	20200
死	20200
傷	20200

昨年、岩手県内で発生した自転車の交通事故は、発生件数六百二十二件、死者数十八人、傷害者数六百十四人となっております。

気候が良くなつてくるとともに交通量も増加し、自転車の事故が増加しています。

○ 自転車に乗る前に、サドルブレーキ、ライト、ミラーなどを点検すること。特に夜間事故防止のため、反射テープをつけましょう。

○ 二人乗り、かささし、手離し運転は絶対にやめましょう

○ 狭い道路から広い道路に出るときは、必ず一時停止か除行をしましょう。